



目 次

| | |
|---|---|
| 1. 九州大学大型計算機センターWWWホームページの リニューアルオープンのお知らせ | 1 |
| 2. 1996年度(平成8年度)プログラムライブラリ開発計画の お知らせ | 1 |
| 3. パソコン端末の学内LAN接続への移行のお願いと LAN端末用エミュレータTSSEの紹介 | 2 |

1. 九州大学大型計算機センターWWWホームページのリニューアルオープンのお知らせ

平成8年6月1日(土)より九州大学大型計算機センターのWWWホームページをリニューアルオープンしました。大型計算機センターのシステム紹介や利用案内、Q&Aなど充実した内容となっておりますので、ぜひ御来訪ください。また、システムメンテナンスや障害等の最新情報も掲載いたしますので、定期的なアクセスをお勧めします。

WWWホームページのアドレスは、従来どおり

<http://www.cc.kyushu-u.ac.jp>

です。ネームサーバに接続していない場合は、

<http://133.5.7.130>

となります。

なお、WWWブラウザとしてNetscape 2.0相当以上の使用を推奨します。

お問い合わせ等は、下記電子メールアドレスまでお願いします。

(広報教育室 E-mail: request@cc.kyushu-u.ac.jp)

2. 1996年度(平成8年度)プログラムライブラリ開発計画のお知らせ

1996年度(平成8年度)前期分として承認(追加)された開発計画は下表の通りです。

| 開発番号 | 課題名 | 開発者(所属) | 開発期間 | 開発時間 | 備考 |
|------|-------------|---------------------------|----------------------------|--------|----|
| 25-9 | 円分多項式の係数の計算 | 小柴 洋一 鹿児島大学教養部 数学教室 | 1996 6.1 ~ 1997 3.31 | 100 時間 | 継続 |

(ライブラリ室 ダイヤルイン 092-642-2295)

e-mail: f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

3. パソコン端末の学内LAN接続への移行のお願いとLAN端末用エミュレータTSSEの紹介

近年各大学等でLANの整備が進んでいる中で、既に九州大学では学内LANであるKITEが完成し、本学も本格的なキャンパスネットワークの環境が整いました。パソコンをLAN端末にすることでftp（ファイル転送）やtelnet（端末機能）がKITEを経由して高速利用できますので、是非とも学内LAN接続への移行をご検討ください。

しかし、従来の学内低速回線で利用できていた、パソコン端末でのグラフィック表示は市販のLAN製品ではサポートされておらず、グラフィック利用者のKITE利用の1つの障壁となっています。そこで、この問題を解決してくれる、LAN端末からでもグラフィック表示ができる端末エミュレータTSSEを紹介します。

TSSEは長崎大学工学部の修行稔氏が作成されたLAN対応端末エミュレータで、無手順端末用に同氏が作成したTSS.COMをベースにしております。したがって、グラフィック表示やPFDFルスクリーンのほかログ採集などTSS.COMの機能を全て継承しています。

1. 動作環境

アライドテレシス社のTCP/IPドライバ（PC/TCPまたはSLIM/TCP）を利用したPC98シリーズのLAN端末環境

2. 端末エミュレータの入手方法（ftpで入手します）

1) PC/TCPご利用の場合

| | |
|---------------------------------|-------------------------|
| a:¥>mkdir tsse | 端末エミュレータ関連ファイルのディレクトリ作成 |
| a:¥>cd pctcp | |
| a:¥pctcp>ftp 133.5.9.2 | PCTCPのFTPでMSPに接続 |
| (username):a79999a | MSPのユーザ名 |
| password:_____ | MSPのパスワード |
| ftp>binary | バイナリ転送モードにする |
| ftp>cd /lib/pds | PDS格納ディレクトリを指定 |
| ftp>get tssea a:¥tsse¥tssea.exe | 自己凍結したファイルをコピー |
| ftp>bye | FTPを終了 |
| a:¥pctcp>cd ¥tsse | TSSEディレクトリに移行 |
| a:¥tsse>tssea.exe | TSSEの自己解凍 |
| ⋮ | |
| ⋮ | 端末エミュレータ関連ファイルが作成される |
| ⋮ | |
| a:¥tsse>copy hosts ¥pctcp¥hosts | 必要であればホスト定義ファイルをコピーする |

2) SLIM/TCPご利用の場合

| | |
|------------------------------------|-------------------------|
| a:¥>mkdir stsse | 端末エミュレータ関連ファイルのディレクトリ作成 |
| a:¥>cd slimtcp | |
| a:¥slimtcp>sftp 133.5.9.2 | SLIMTCPのFTPでMSPに接続 |
| (username):a79999a | MSPのユーザ名 |
| password:_____ | MSPのパスワード |
| ftp>binary | バイナリ転送モードにする |
| ftp>cd /lib/pds | PDS格納ディレクトリを指定 |
| ftp>get stssea a:¥stsse¥stssea.exe | 自己凍結したファイルをコピー |
| ftp>bye | FTPを終了 |
| a:¥slimtcp>cd ¥stsse | STSSEディレクトリに移行 |
| a:¥stsse>stssea.exe | STSSEの自己解凍 |
| ⋮ | |
| ⋮ | 端末エミュレータ関連ファイルが作成される |
| ⋮ | |
| a:¥stsse>copy hosts ¥slimtcp¥hosts | 必要であればホスト定義ファイルをコピーする |

3. 使用例

a:¥tsse>key tsseth v. tbl
a:¥tsse>tsse /h/i133.5.9.2

MSPのファンクションキー設定ファイル
オプション /h/i は必須です。
S L I M / T C P の場合は (a:¥stsse>stsse /h/i133.5.9.2)

PLEASE KEY IN "TERMINAL TYPE" (E:END,%X:XTERM6683, NULL:HELP) --->

*** TERMINAL TYPE LIST BEGIN ***

- | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| 1. VT#TTY | 2. VT#TTYJ | 3. VT#9526 | 4. VT#6650 | 5. VT#6650S |
| 6. SUN#9526 | 7. NEWS9526 | 8. G15#6650 | 9. FMR#6650 | 10. TTY |
| 11. SUN#6650 | 12. NEWS6650 | 13. OPENWIN | 14. MSWIN | 15. MSWIN#S |
| 16. MSWIN#J | 17. NWC | 18. VT#6650J | | |

*** TERMINAL TYPE LIST END ***

PLEASE KEY IN "TERMINAL TYPE" (E:END,%X:XTERM6683, NULL:HELP) ---> 10 (TTYを必ず選択する)

ENTER USERID-

A79999A

PASSWORD ?

READY

- ・テクトロ用グラフィックアプリケーションの利用例 (GRAPHMANの例)

GRAPHMAN

=== FOLLOWING DEVICES ARE SUPPORTED NOW. ===

- 1 NON GRAPHIC DISPLAY (CHARACTER DISPLAY)
- 2 F9431, F9432, F9433, F9434
- 3 T4006
- 4 T4010, T4012, T4013
- 5 T4014, T4015, T4016
- 6 NLP
- 8 F9430 & SCOPY
- 9 A4 SIZE NLP
- 11 X-WINDOW, F6653, F6658, F6683 (BGD, WDS, VDS)
- 12 A4 SIZE OPR
- 13 B4 SIZE OPR

PLEASE SELECT DEVICE NUMBER ==> 4

> PDB 'LIB. SAMPLE. GRAPHMAN'

> USE CONT2N

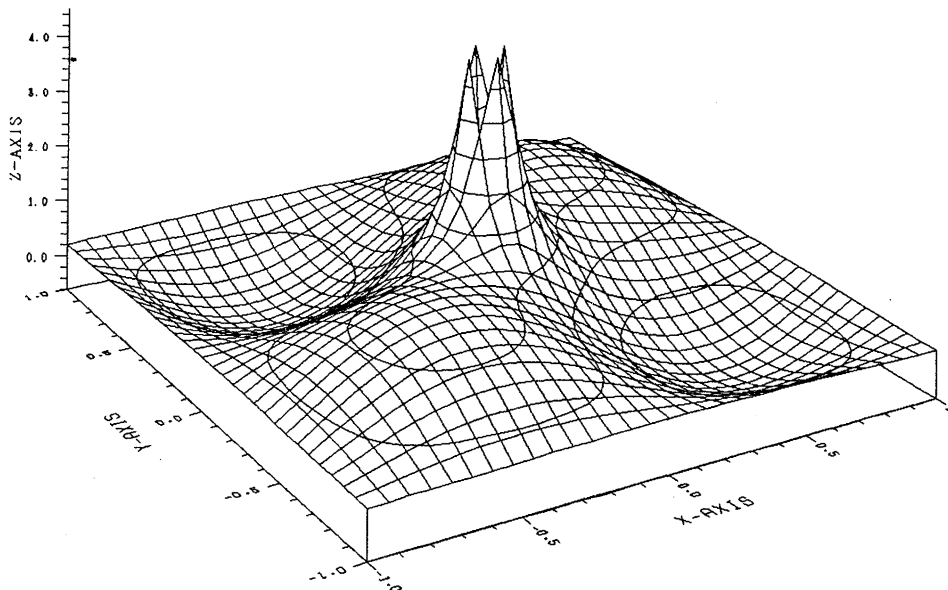
> D B

ここで図形が描かれます。

図形部分のハードコピー (LIPS3プリンタのとき) をとる場合は SHIFT + XFER + C (SHIFTキーと XFER キーを押しながら C を入力) すると図形部分のみの印刷ができます。

> ERASE

> ENDG



- ・ PFD の利用例
PFD の起動も以下のように通常どおり行え、起動するとファンクションキーが自動的に PFD 用に切り替わります。

PFD

```

----- <PFDプライマリオプションメニュー -----
オプション =>  _

0 ATTRIBUTES - PFD属性及び端末特性を定義する。
1 BROWSE      - データセットの内容を表示/検索する。
2 EDIT        - データセットの内容を編集する。
3 UTILITY     - 各種ユティリティを実行する。
4 FOREGROUND - コンパイル、リンクエディットを行うコマンドを実行する。
5 BACKGROUND - コンパイル、リンクエディットを行うバッチジョブを起動する。
6 TSS         - TSSコマンド及びコマンドプロシジャを実行する。
7 TEST        - メニュー、メッセージ、プログラムをテストする。
H HELP        - PFDの使用方法を表示する。
X EXIT        - PFDを終了する。
-----
PFD終了時、PFD終了メニューを表示する場合は、ENDキーを押してください。

```

4. 作業の履歴採集

TSS 処理中のメッセージ履歴を自動的にパソコンへ書き込む場合は以下のようにします。ただし、グラフや PFD など途中を起動するとファンクションキーが効かなくなりますので注意してください。

- ・ 転送モードの設定

XFER + F

1・受信 2・送信 番号 -> 1

- ・ 格納ファイルの設定

XFER + G

ファイル名 (例B:¥ 中止 : ESC) ->A:¥LOG

```

:
LISTC
:
ST
:
:

```

- ・ 中止

ESC

受信データをA:¥LOGに格納しました。

READY
LOGOFF

a:¥tsse>

詳細は、端末エミュレータ関連ファイルの README および TSSE.DOC をご覧下さい。

(ネットワーク掛 ダイヤルイン 092-642-2309)